

参考 地域別構想の現況

参考 1：北部地域の現況

(1) 人口

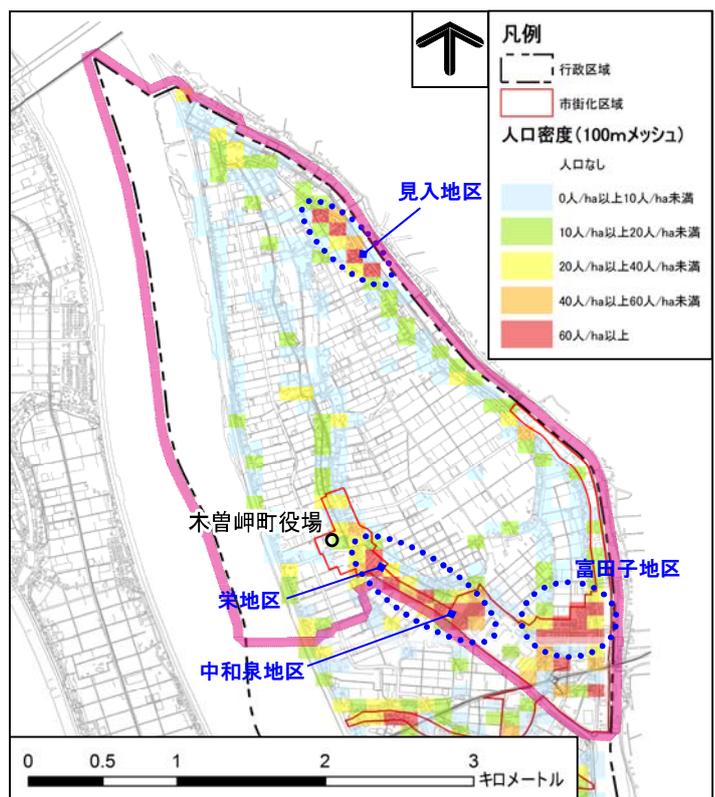
本地域の人口は、平成 22 年時点で 5,031 人となっており、そのうち 55.6%にあたる 2,796 人が、地域全体に対して 10.3%の面積を占める市街化区域に居住しています。なお、市街化区域における人口密度は 34.5 人/ha となっており、市街化調整区域における人口密度に対して 10.8 倍の値となっています。

また、人口集中地区※の目安である 40 人/ha を超える地域は、市街化区域内の富田子地区、栄地区、中和泉地区などでみられ、いずれの地区も県道木曾岬富停車場線の沿道に位置しています。一方、市街化調整区域では、北部の鍋田川沿いに位置する見入地区で見られますが、その他の地区は、ほとんどが 10.0 人/ha 未満となっています。

なお、本地域内には人口集中地区はありません。

※人口集中地区

1)原則として人口密度が1平方キロメートル当たり4,000人以上の基本単位区等が市区町村の境域内で互いに隣接して、2)それらの隣接した地域の人口が国勢調査時に5,000人以上を有する地域



資料：平成 22 年国勢調査

■人口密度分布図 (100mメッシュ)

■人口・面積

区分	面積		人口 (H22)		人口密度 (人/ha)	
	(ha)	占有率 (%)	(人)	占有率 (%)		
北部地域	都市計画区域	782.7	100.0	5,031	100.0	6.4
	市街化区域	81.0	10.3	2,796	55.6	34.5
	市街化調整区域	701.7	89.7	2,235	44.4	3.2

資料：平成 24 年度都市計画基礎調査

注) 町全体の人口は平成 27 年の国勢調査結果で整理しているが、地域別の人口については、データの公表時期の都合上、平成 27 年の国勢調査結果で集計ができないため、平成 24 年度都市計画基礎調査 (もとデータ平成 22 年国勢調査結果) のデータで整理している。

(2) 土地利用現況

本地域の土地利用現況は、農地が大部分を占めており、住居系は南部の市街化区域を中心に集中しています。また、商業系は国道 23 号周辺に集中して立地しているほか、町中央部の役場周辺にも点在しています。

なお、工業系は国道 23 号周辺に集中して立地しています。その他、鍋田川沿いにも商業系や工業系が広がっています。

土地利用の割合をみると、農地の占める割合が約 40.7%と最も高く、次いで住居系が 7.9%、工業系が 4.4%となっておりますが、市街化区域に限ってみると、工業系の占める割合が 29.5%と最も高く、次いで住居系が 22.0%、商業系が 11.4%と宅地のみで 62.9%を占め、土地利用が図られている状況となっております。



資料：平成 24 年度都市計画基礎調査

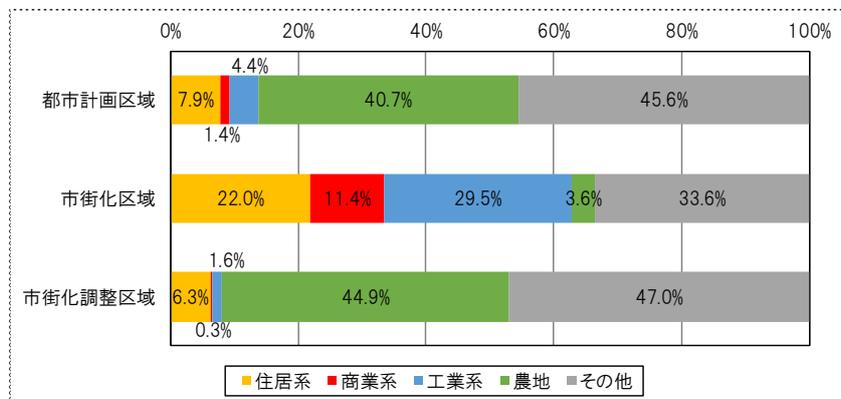
■土地利用現況図

■土地利用の現況

(単位：ha)

区分	宅地			非宅地			合計	
	住居系	商業系	工業系	農地	山林・原野	その他		
北部地域	都市計画区域	61.8	11.1	34.8	318.3	0.0	356.7	782.7
	市街化区域	17.8	9.2	23.9	2.9	0.0	27.2	81.0
	市街化調整区域	44.0	1.9	10.9	315.4	0.0	329.5	701.7

資料：平成 24 年度都市計画基礎調査



資料：平成 24 年度都市計画基礎調査

■土地利用現況割合

(3) 市街化区域内の未利用地

本地域では、市街化区域内の未利用地は合計6.4haで、そのうち「農地」が2.9ha、「遊休土地」が3.5haとなっており、木曾岬町役場周辺や、国道23号と県道木曾岬弥富停車場線との交差点周辺をはじめ、住宅地や工業地等の中に、小規模ではありますが点在しています。

■未利用地用途別面積

用途		面積 (ha)
北部地域	農地	2.9
	山林・原野	0.0
	遊休土地	3.5
	合計	6.4

資料：平成24年度都市計画基礎調査



資料：平成24年度都市計画基礎調査

■未利用地位置図

(4) 道路

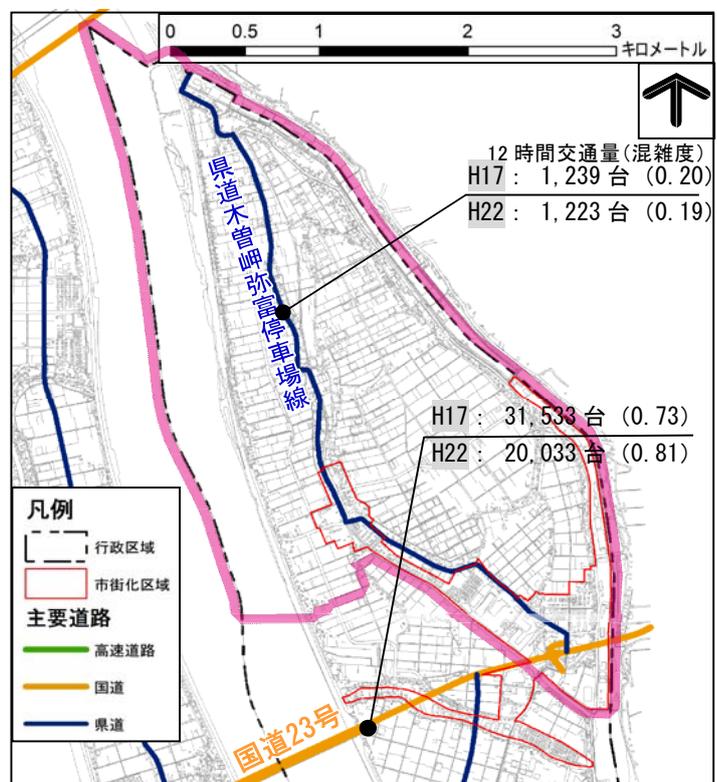
本地域では、南部を東西に、国道23号が、中央部を南北に県道木曾岬弥富停車場線が通っており、2路線の交差点は立体交差となっています。また、地域内を縦横に町道が通っており、地域同士を密に連絡する生活道路網を形成しています。

また、主要な道路の平日12時間交通量は、国道23号は約20,000台、県道木曾岬弥富停車場線は約1,200台となっています。

■北部地域の国道・県道

道路名	交通量 (台/12h)	混雑度
国道23号	20,033	0.81
県道木曾岬弥富停車場線	1,223	0.19

資料：平成22年度道路交通センサス



■主要道路網図

(5) 公共交通

本地域には、鉄道及び駅は無く、隣接する弥富市のJR関西本線、近鉄名古屋線、名鉄尾西線の弥富駅が最寄り駅となっています。

一方、バス路線については、自主運行バスが本地域から弥富駅へ「中央線」と「源緑見入線」の2路線が毎日運行しており、運行本数は「中央線」が往復16本/日、「源緑見入線」が往復7本/日となっています。



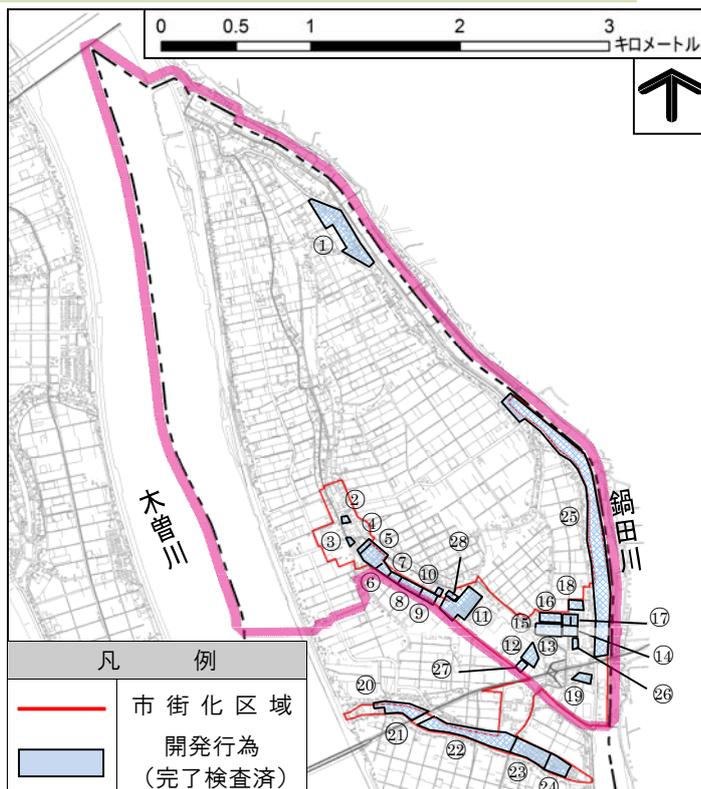
■ 自主運行バスの路線網図

(6) 開発動向

本地域では、23 箇所 (35.3ha) の開発行為が行われており、すべて完了しています。

このうち、「見入辰高団地」を除く 22 箇所は市街化区域内で行われており、町中央部を南北に流れる中央幹線排水路沿いや、国道 23 号と県道木曾岬弥富停車場線の交差部周辺において、開発が集中しています。

なお、大規模な開発として本地域東部の鍋田川沿いにおける「鍋田川工業団地」が 10.0ha、次いで、北部の「見入辰高団地」が 6.5ha となっている他は小規模な開発が多く、半数以上の 16 箇所が 1.0ha 以下の開発となっています。



■開発行為位置図

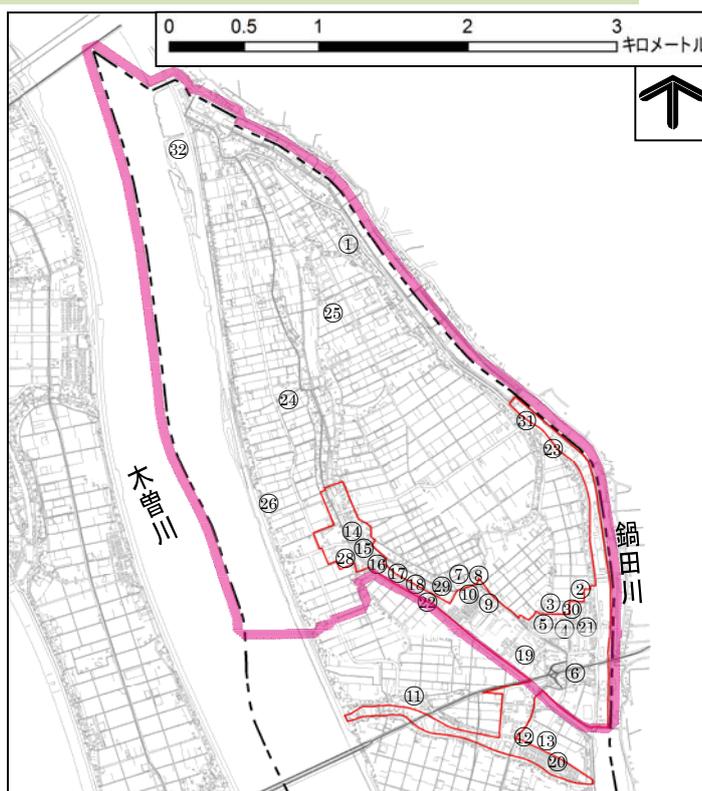
■開発の動向

図面 No.	名称	位置	面積 (ha)	開発手法	事業認可年	備考
1	見入辰高団地	見入字辰高	6.5	開発行為	S45	完了検査済
2	小林団地	小林	1.6	〃	S63	完了検査済
3	栄団地 1	栄	0.3	〃	S48	完了検査済
4	〃 2	〃	0.7	〃	S57	完了検査済
5	〃 3	〃	0.6	〃	S48	完了検査済
6	〃 4	〃	0.7	〃	S49	完了検査済
7	〃 5	〃	0.3	〃	S50	完了検査済
8	〃 6	〃	1.1	〃	—	完了検査済
9	〃 7	〃	0.4	〃	—	完了検査済
10	中和泉団地	中和泉	0.3	〃	—	完了検査済
11	名西ニュータウン	〃	3.1	〃	S55	完了検査済
12	南栄団地	栄	0.4	〃	S48	完了検査済
13	新富田子団地 1	富田子	1.6	〃	S48	完了検査済
14	〃 2	〃	1.0	〃	—	完了検査済
15	東富田子団地 1	〃	0.4	〃	S58	完了検査済
16	〃 2	〃	3.3	〃	H1	完了検査済
17	〃 3	〃	0.4	〃	H6	完了検査済
18	かおるヶ丘団地	〃	0.9	〃	—	完了検査済
19	丸山団地	〃	0.7	〃	S48	完了検査済
25	鍋田川工業団地	〃	10.0	〃	H7	完了検査済
26	富田子地区団地	富田子	0.3	〃	H15	完了検査済
27	南栄地区団地	栄	0.3	〃	H16	完了検査済
28	中和泉地区団地	中和泉	0.4	〃	H17	完了検査済
合計			35.3			

(7) 公園・緑地等

本地域では、公園・緑地が 26 箇所（計 11,891 m²）整備されており、市街化区域内に集中して分布しています。

なお、本地域内の都市計画決定されている公園は、唯一、北部の「グルービーパーク木曾川」（54,000 m²）で、都市計画緑地として整備されています。



■公園・緑地等位置図

■公園一覧

NO	公園・緑地等の名称	面積 (m ²)	NO	公園・緑地等の名称	面積 (m ²)
1	辰高	284	19	南栄	251
2	かおるヶ丘	227	21	新富田子C	229
3	東富田子	576	22	第2栄	150
4	新富田子A	691	23	和泉地区農村公園	800
5	新富田子B	408	24	加路戸地区農村公園	343
6	富田子	250	25	見入地区農村公園	640
7	中栄A	137	26	近江地区中央農村公園	800
8	中栄B	223	28	雁ヶ地	58
9	中栄C	1,332	29	中栄E	209
10	中栄D	140	30	東富田子B	125
14	栄A	181	31	鍋田川いこい公園	2,477
15	栄B	513	合 計		11,819
16	栄C	270			
17	栄D	169			
18	栄E	336			

■都市計画緑地

NO	公園名	面積 (m ²)
32	グルービーパーク木曾川	54,000

(8) 下水道等

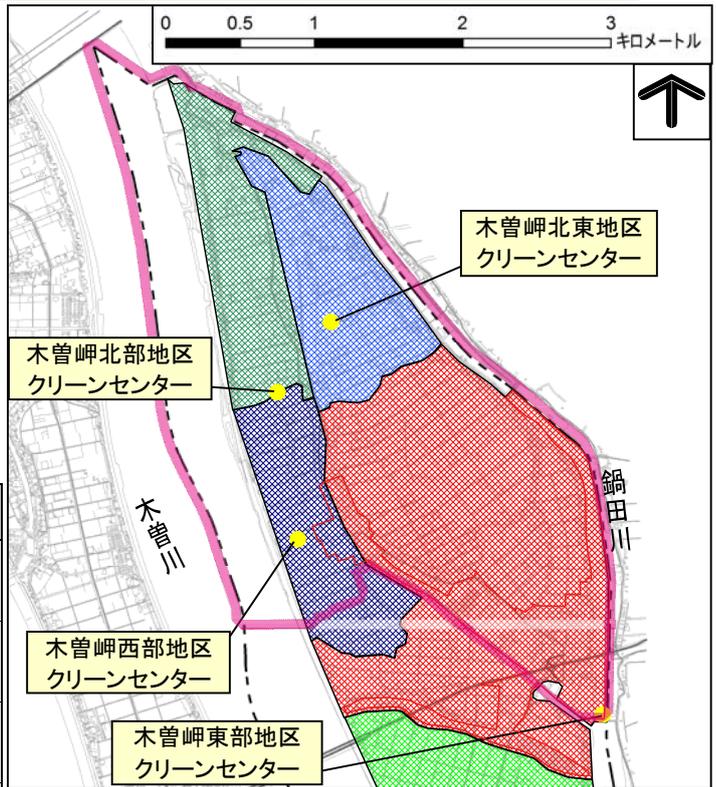
本地域では、町内全域において、下水道（市街地：公共下水道事業、市街化調整区域：農業集落排水事業）の整備が行われています。

公共下水道については、木曾岬東部地区クリーンセンターで、その他の農業集落排水については、3つの地区に区分され、それぞれの地区のクリーンセンターにおいて処理されています。

■下水道処理区域およびクリーンセンター

地区	事業種別	計画人口	クリーンセンター
	農業集落排水事業 北東処理区	640人	木曾岬北東地区 クリーンセンター
	農業集落排水事業 北部処理区	470人	木曾岬北部地区 クリーンセンター
	農業集落排水事業 西部処理区	520人	木曾岬西部地区 クリーンセンター
	公共下水道事業	3,880人	木曾岬東部地区 クリーンセンター

注) 計画人口は平成47年時点の計画人口



■下水道処理区域およびクリーンセンター位置図

(9) 公共公益施設

本地域には、小学校と、中学校がそれぞれ1か所ずつ整備されています。また、福祉センター、保健センター等の福祉施設や、木曾岬郵便局、文化資料館等が木曾岬町役場周辺に位置しており、町の中心的機能を有しています。

なお、木曾岬町役場、文化資料館、保健センター等を集約し、防災拠点ともなる「木曾岬町複合型施設」が平成29年度供用をめどに事業化されています。

その他、コミュニティ施設として北部公民館、東部公民館があり、コミュニティ活動や文化活動の場となっています。



■公共公益施設位置図

(10) 区域区分及び用途地域等

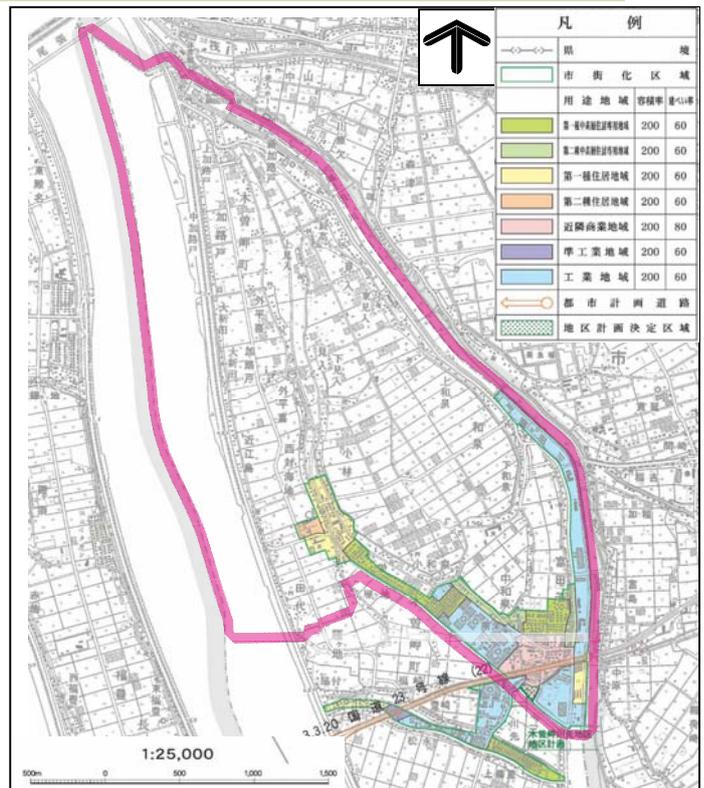
本地域では、782.7ha の都市計画区域のうち約 10.3%の 81.0ha が市街化区域に、89.7%の 701.7ha が市街化調整区域に指定されています。

市街化区域のうち 36.1ha (44.6%) が工業地域に、12.2ha (15.0%) が近隣商業地域に、32.7ha (40.4%) が住居系の用途地域に指定されています。

■用途地域指定状況

用途地域	面積
都市計画区域	782.7ha
市街化区域	81.0ha
第一種中高層住居専用地域	13.6ha
第二種中高層住居専用地域	6.2ha
第一種住居地域	11.2ha
第二種住居地域	1.7ha
近隣商業地域	12.2ha
工業地域	36.1ha
市街化調整区域	701.7ha

資料：平成 22 年度都市計画基礎調査

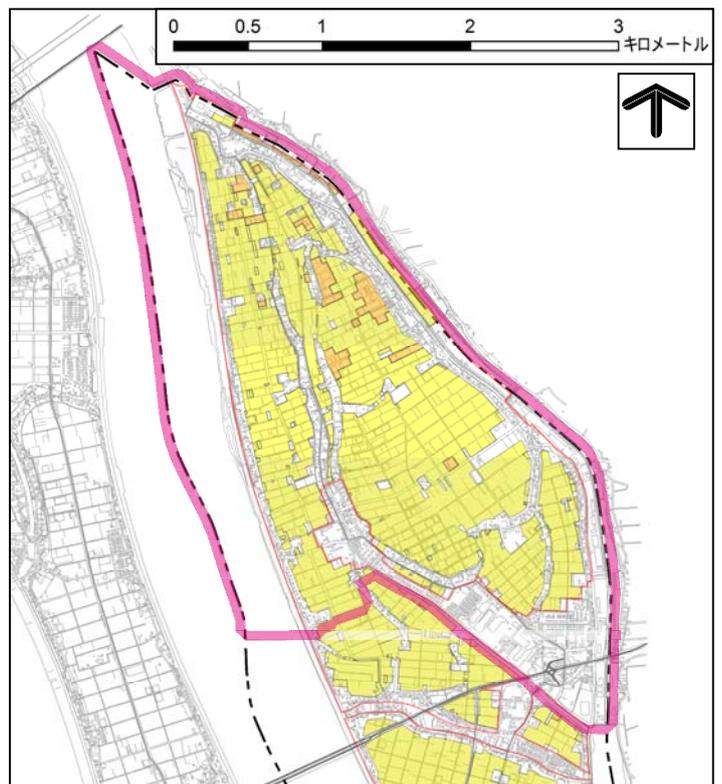


資料：木曾岬町都市計画図

■用途地域指定状況

(11) 農振法による農業振興地域及び農用地区域

本地域では、市街化調整区域のほぼ全域が農業振興地域に指定されており、そのうち、農用地が占める面積も大きくなっています。



資料：平成 22 年度都市計画基礎調査

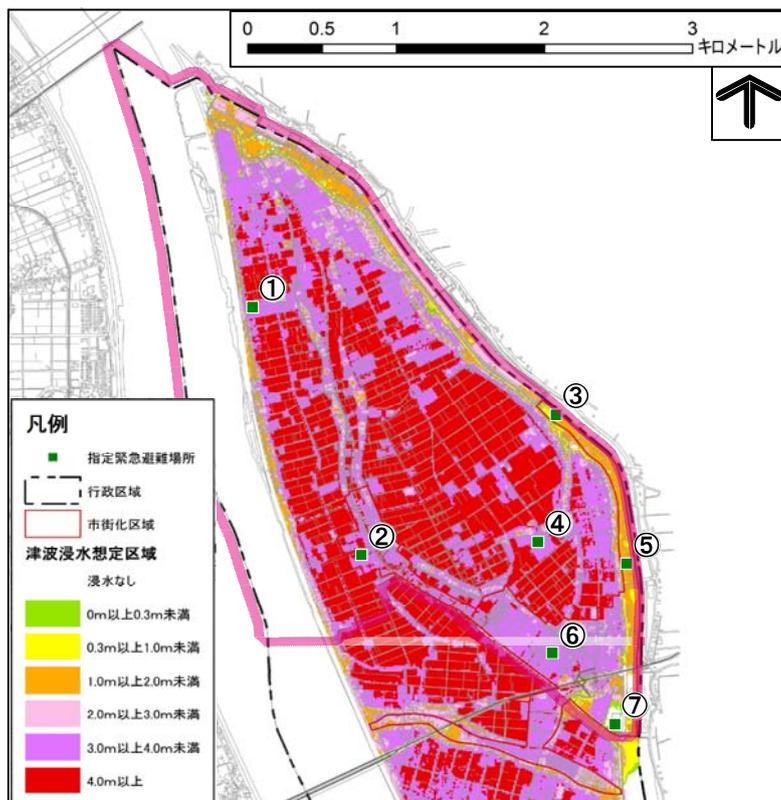
■農業振興地域及び農用地区域図

(12) 津波浸水予測

ほぼすべての地域で 3m 以上と予測されています。

指定緊急避難場所（一時避難所）

番号	名称
①	福德商事（株）
②	小学校
③	中部畳材（株）
④	中学校
⑤	石田鉄工（株）
⑥	（株）マルアイ木曾岬工場
⑦	浅井工業（株）



■津波浸水深（理論上最大）

参考2：南部地域の現況

(1) 人口

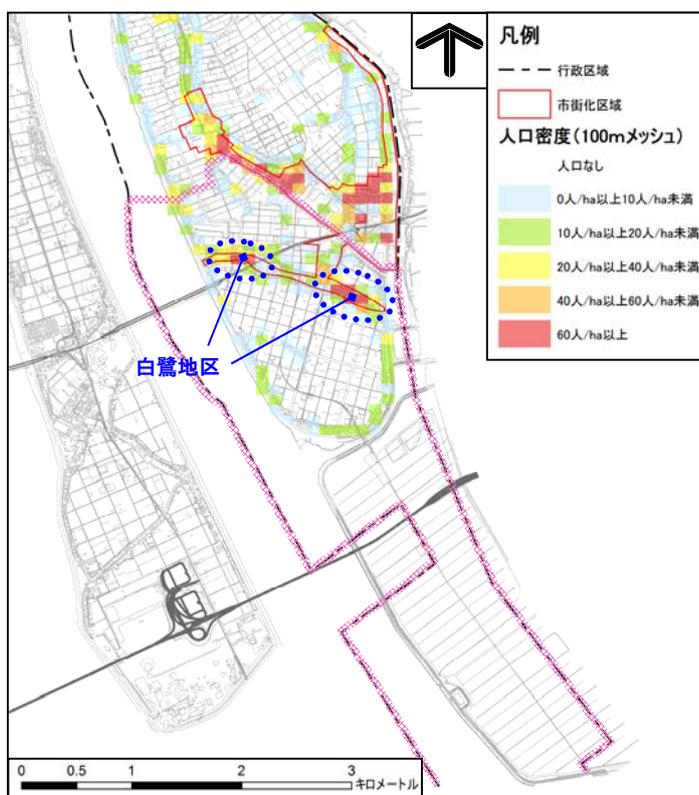
本地域の人口は、平成 22 年時点で 1,824 人となっており、そのうち 49.2% にあたる 898 人が、地域全体に対して 2.6%の面積を占める市街化区域に居住しています。なお、市街化区域における人口密度は 43.0 人/ha となっており、市街化調整区域における人口密度に対して 35.7 倍の値となっています。

また、人口集中地区※の目安である 40 人/ha を超える地域は、市街化区域内の西白鷺川沿いの白鷺地区で見られますが、その他の地区は、ほとんどが 20.0 人/ha 未満となっています。

なお、本地域内には人口集中地区はありません。

※人口集中地区

1)原則として人口密度が 1 平方キロメートル当たり 4,000 人以上の基本単位区等が市区町村の境域内で互いに隣接して、2)それらの隣接した地域の人口が国勢調査時に 5,000 人以上を有する地域



資料：平成 22 年国勢調査

■人口密度分布図 (100mメッシュ)

■人口・面積

区分	面積		人口 (H22)		人口密度 (人/ha)	
	(ha)	占有率 (%)	(人)	占有率 (%)		
南部地域	都市計画区域	789.3	100.0	1,824	100.0	2.3
	市街化区域	20.9	2.6	898	49.2	43.0
	市街化調整区域	768.4	97.4	926	50.8	1.2

資料：平成 24 年度都市計画基礎調査

注) 町全体の人口は平成 27 年の国勢調査結果で整理しているが、地域別の人口については、データの公表時期の都合上、平成 27 年の国勢調査結果で集計ができないため、平成 24 年度都市計画基礎調査（もとデータ平成 22 年国勢調査結果）のデータで整理している。

(2) 土地利用現況

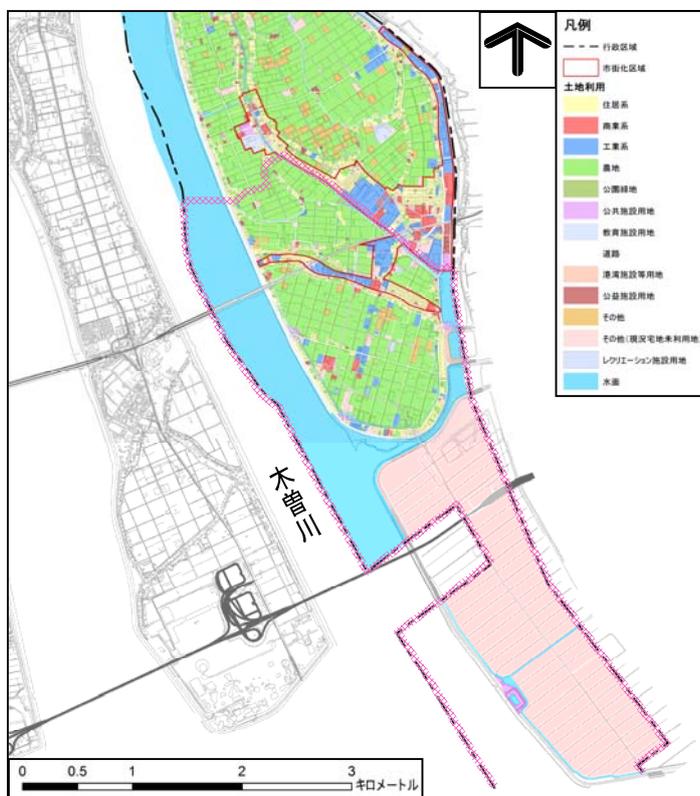
本地域の土地利用現況は、農地が大部分を占めており、住居系の土地利用は北部の市街化区域に集中しているほか、鍋田川や木曾川の堤防沿いに集中しています。

また、商業系は市街化区域内のほか、県道木曾岬弥富停車場線沿道、木曾川沿いなどに点在しています。

なお、工業系は市街化区域に集中しているほか、県道木曾岬弥富停車場線沿道にも立地しています。その他、木曾川沿いにも商業系や工業系が点在しています。

土地利用の割合をみると、その他を除いては、農地の占める割合が23.4%と最も高く、次いで住居系が3.3%、工業系が2.1%となっております。

市街化区域に限ってみると、工業系の占める割合が42.1%と最も高く、次いで住居系が26.3%、商業系が7.7%となっております。



資料：平成24年度都市計画基礎調査

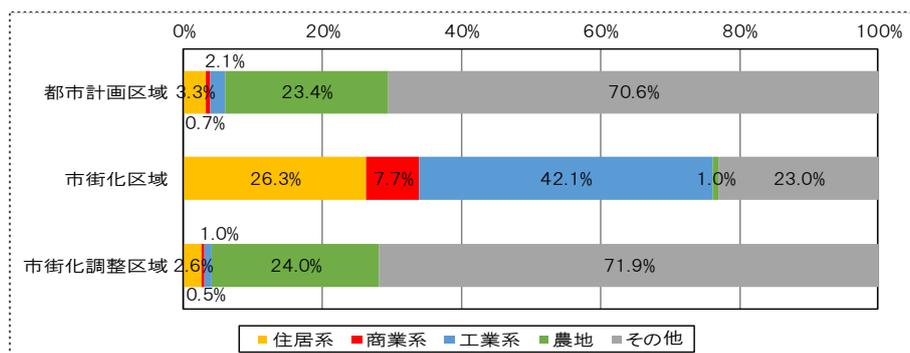
■土地利用現況図

■土地利用の現況

(単位：ha)

区分	宅地			非宅地			合計	
	住居系	商業系	工業系	農地	山林・原野	その他		
南部地域	都市計画区域	25.7	5.3	16.6	184.7	0.0	557.0	789.3
	市街化区域	5.5	1.6	8.8	0.2	0.0	4.8	20.9
	市街化調整区域	20.2	3.7	7.8	184.5	0.0	552.2	768.4
	木曾岬干拓地						324.0	324.0

資料：平成24年度都市計画基礎調査



■土地利用現況割合

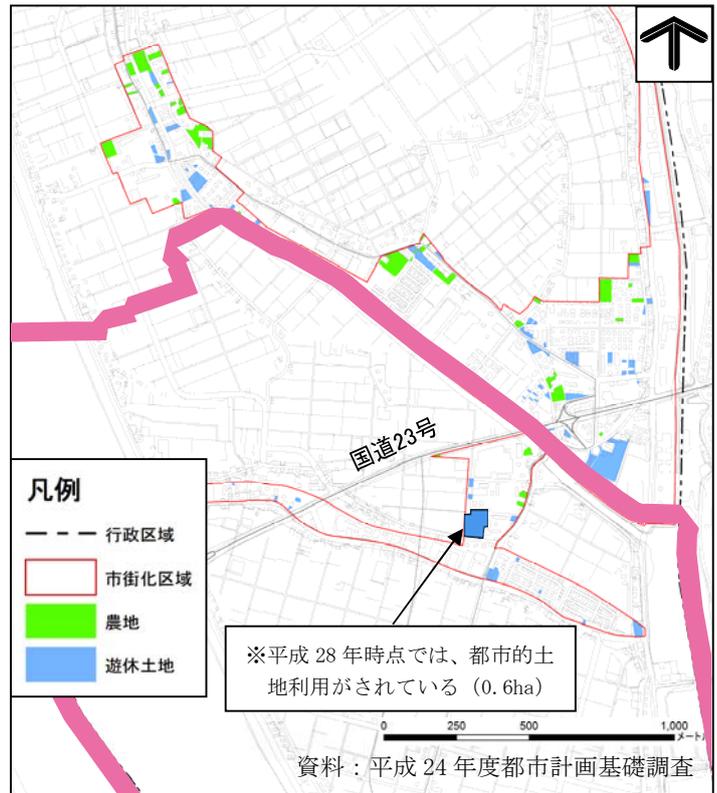
(3) 市街化区域内の未利用地

本地域では、市街化区域内の未利用地は合計 1.1ha で、そのうち「遊休土地」の 0.9ha は国道 23 号南側や、小規模ではありますが西白鷺川沿いに点在しています。また、「農地」の 0.2ha は、県道木曾岬弥富停車場線に沿って点在しています。

■未利用地用途別面積

用途		面積 (ha)
南部地域	農地	0.2
	山林・原野	0.0
	遊休土地	0.9
	合計	1.1

資料：平成 24 年度都市計画基礎調査



■未利用地位置図

(4) 道路

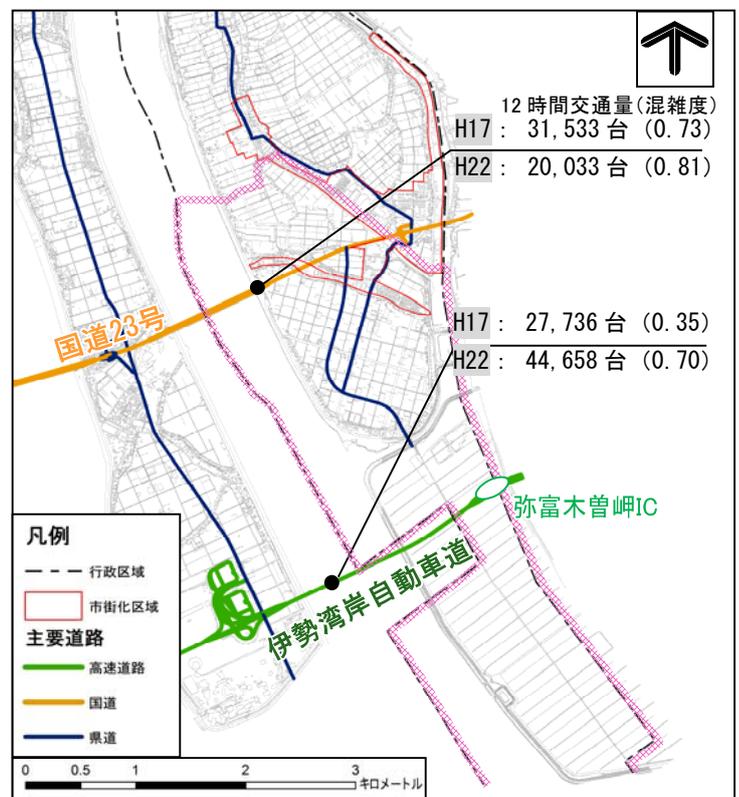
本地域では、中央部を東西に伊勢湾岸自動車道が通っており、弥富木曾岬 IC が設置されています。また、出入り制限のある国道 23 号が北部を東西に通っており、県道木曾岬弥富停車場線及びバイパスが中央部を南北に通っています。なお、地域内には縦横に町道が通っており、地域同士を密に連絡する生活道路網を形成しています。

また、主要な道路の平日 12 時間交通量は、伊勢湾岸自動車道が約 44,700 台、国道 23 号が約 20,000 台となっています。

■南部地域の国道・県道

道路名	交通量 (台/12h)	混雑度
伊勢湾岸自動車道	44,658	0.70
国道 23 号	20,033	0.81

資料：平成 22 年度道路交通センサス

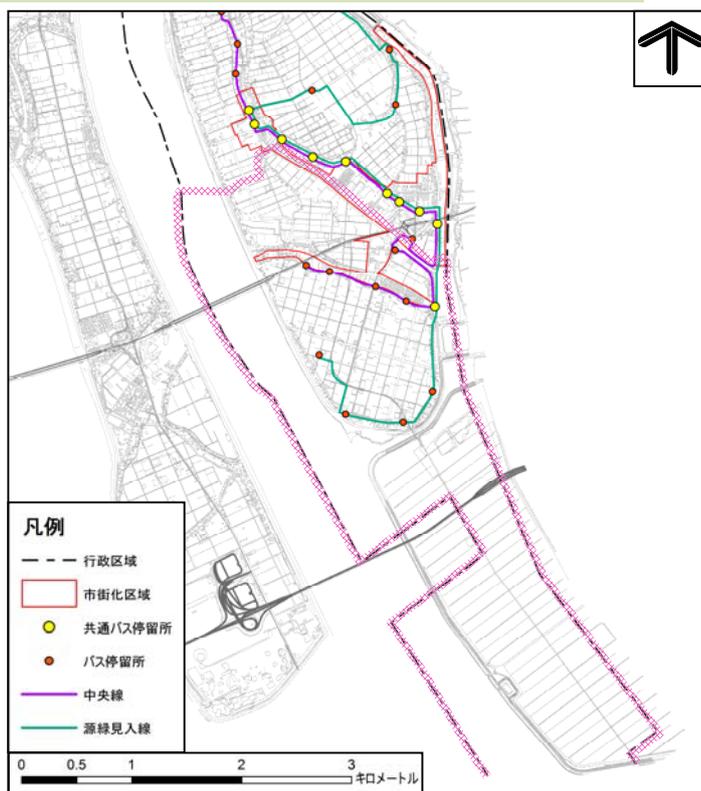


■主要道路網図

(5) 公共交通

本地域には、鉄道及び駅は無く、北部地域に隣接する弥富市のJR関西本線、近鉄名古屋線、名鉄尾西線の弥富駅が最寄り駅となっています。

一方、バス路線については、自主運行バスが本地域から北部地域を經由して弥富駅へ「中央線」と「源緑見入線」の2路線が毎日運行しており、運行本数は「中央線」が往復16本/日、「源緑見入線」が往復7本/日となっています。

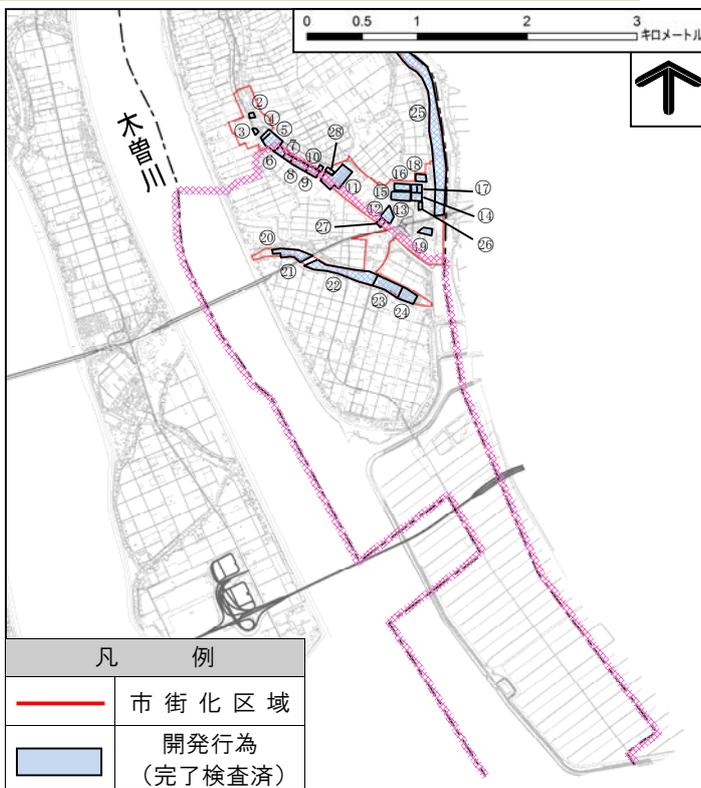


■自主運行バスの路線網図

(6) 開発動向

本地域では、西白鷺川沿いの市街化区域内で5箇所(11.9ha)の開発行為が行われており、すべて完了しています。

なお、開発規模発としては「白鷺川工業団地」が5.3haと最も大きく、次いで「なぎさ台団地」が2.4haと中規模な開発が主となっています。



■開発行為位置図

■開発の動向

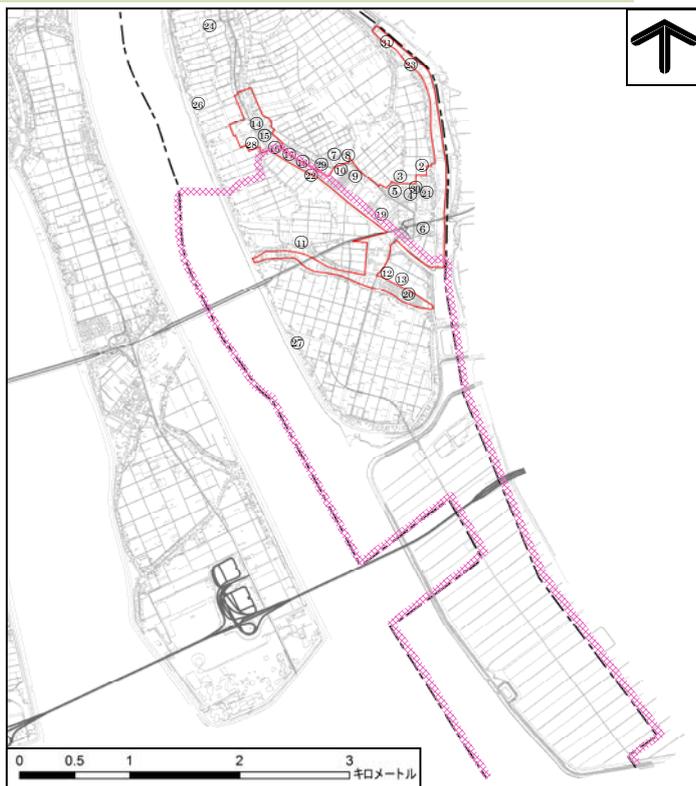
図面No.	名称	位置	面積(ha)	開発手法	事業認可年	備考
20	西白鷺川団地1	白鷺	0.2	開発行為	S55	完了検査済
21	西白鷺川団地2	〃	1.8	〃	S48	〃
22	白鷺川工業団地	〃	5.3	〃	S48	〃
23	藤里台団地	〃	2.2	〃	S48	〃
24	なぎさ台団地	〃	2.4	〃	S62	〃
合計			11.9			

(7) 公園・緑地等

本地域では、公園・緑地が5箇所(3,020㎡)整備されており、市街化区域内と周辺部に集中しているほか、中央部の木曾川沿いに分布しています。

■公園一覧

N0	公園・緑地等の名称	面積(㎡)
11	西白鷺川	850
12	東白鷺川A	560
13	東白鷺川B	73
20	なぎさ台	649
27	ふるさと公園	888
合 計		3,020



■公園・緑地等位置図

(8) 下水道等

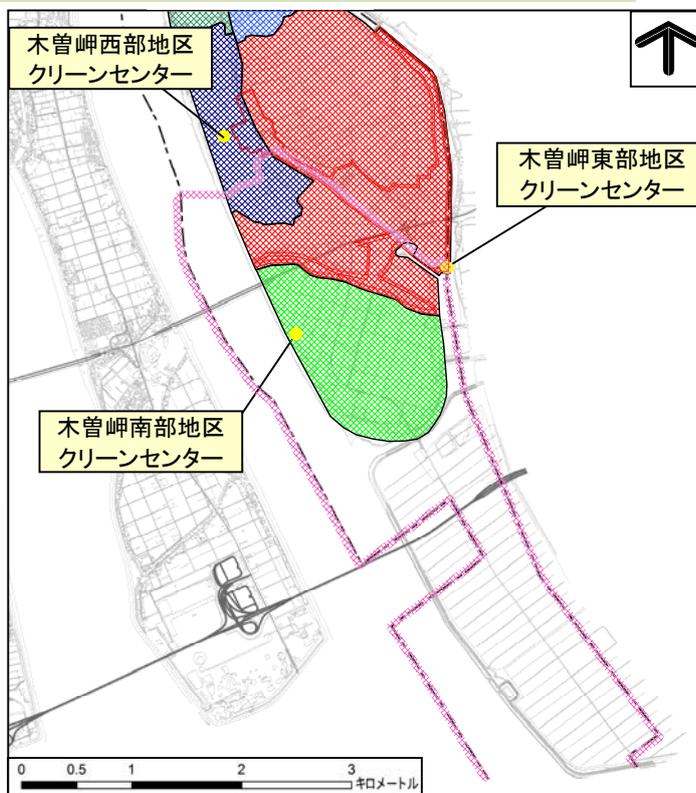
本地域では、町内全域において、下水道（市街地：公共下水道事業、市街化調整区域：農業集落排水事業）の整備が行われています。

公共下水道については、木曾岬東部地区クリーンセンターで、その他の農業集落排水は、2つの地区に区分され、それぞれの地区のクリーンセンターにおいて処理されています。

■下水道処理区域およびクリーンセンター

地区	事業種別	計画人口	クリーンセンター
	農業集落排水事業 南部処理区	490人	木曾岬南部地区 クリーンセンター
	農業集落排水事業 西部処理区	520人	木曾岬西部地区 クリーンセンター
	公共下水道事業	3,880人	木曾岬東部地区 クリーンセンター

注) 計画人口は平成47年時点の計画人口



■下水道処理区域およびクリーンセンター位置図

(9) 公共公益施設

本地域には、西白鷺川の北側に南部幼稚園・南部保育園が設置されておりますが、小学校、中学校とも設置されておられません。

また、行政施設や福祉施設、コミュニティ施設等についても、北部地域に集中して整備されており、本地域には未設置となっています。



■公共公益施設位置図

(10) 区域区分及び用途地域等

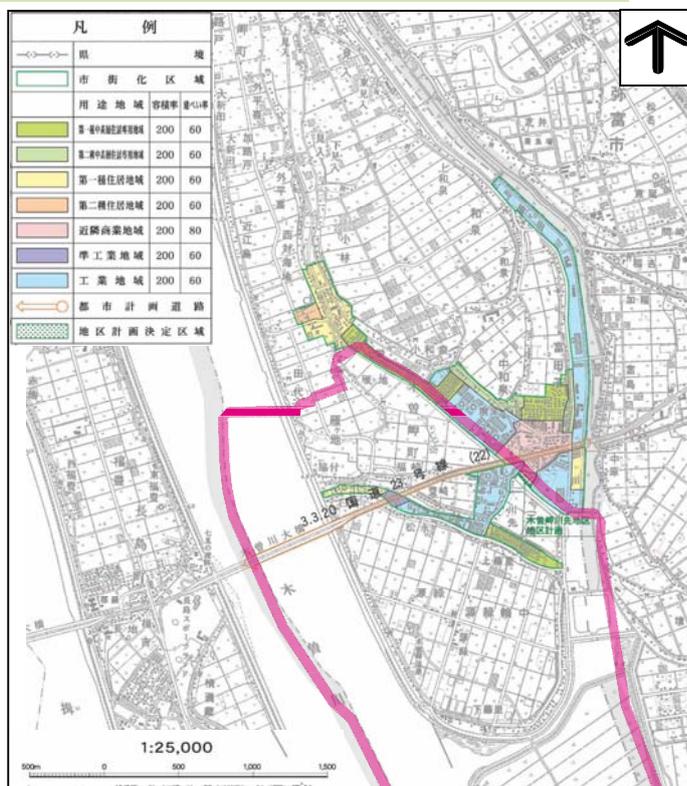
本地域では、789.3haの都市計画区域のうち2.6%の20.9haが市街化区域に、97.4%の768.4haが市街化調整区域に指定されています。

市街化区域のうち5.5haが第1種中高層住居専用地域に、2.4haが第1種住居地域に、13.0haが工業系用途地域に指定されています。

■用途地域指定状況

用途地域	面積
都市計画区域	789.3ha
市街化区域	20.9ha
第一種中高層住居専用地域	5.5ha
第一種住居地域	2.4ha
準工業地域	1.3ha
工業地域	11.7ha
市街化調整区域	768.4ha

資料：平成22年度都市計画基礎調査

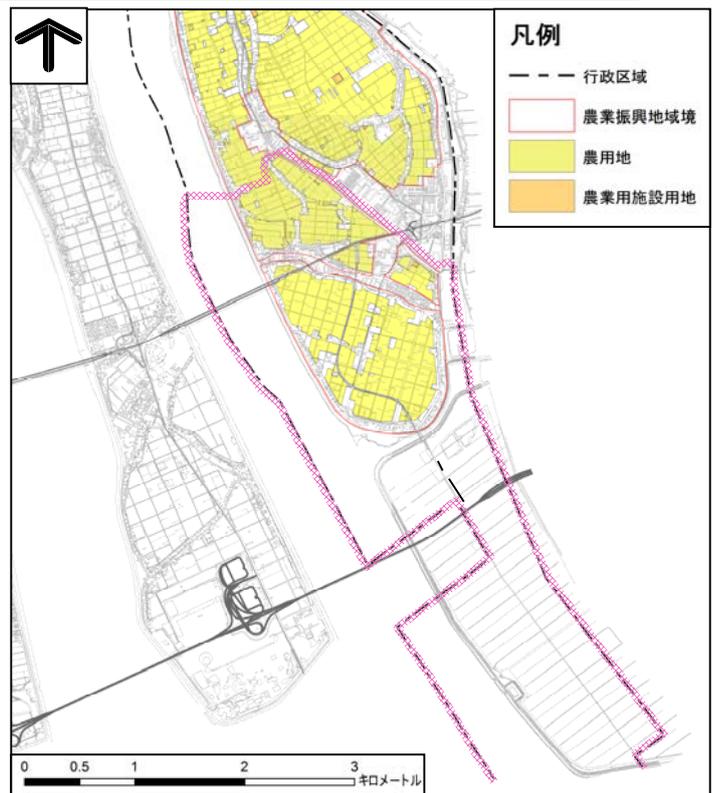


資料：木曾岬町都市計画図

■用途地域指定状況

(11) 農振法による農業振興地域及び農用地区域

本地域では、市街化調整区域のほぼ全域が農業振興地域に指定されており、そのうち、農用地が占める面積も大きくなっています。

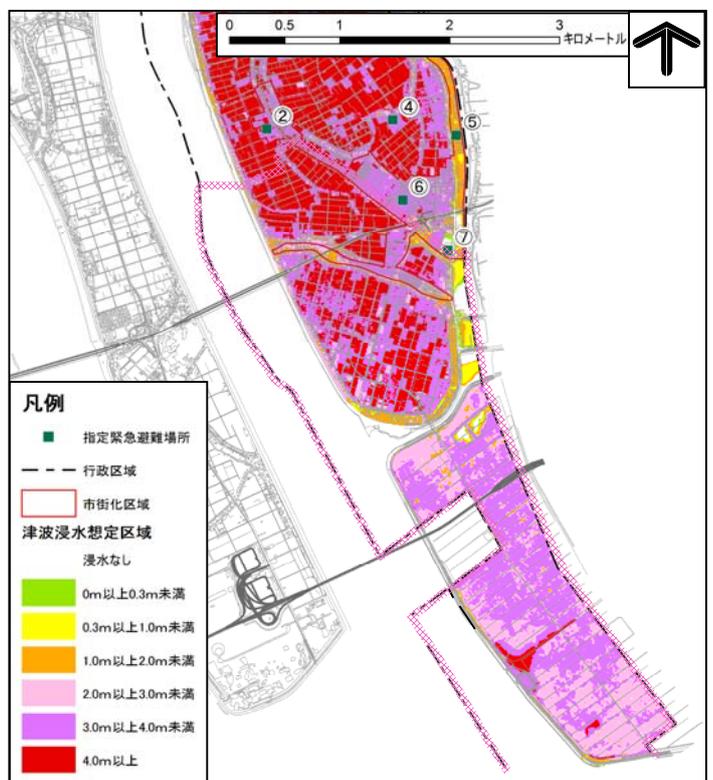


資料：平成 22 年度都市計画基礎調査

■農業振興地域及び農用地区域図

(12) 津波浸水予測

木曾岬干拓地を除く南側地域は、一部地域を除いて、「4m以上」もしくは「3m以上 4m未満」と予測されています。木曾岬干拓地は「3m以上 4m未満」もしくは「2m以上 3m未満」と予測されていますが、伊勢湾岸自動車道北側の都市的土地利用に移行するエリアについては、安全な都市基盤の創出に向け、盛土造成が進められています。



■津波浸水深（理論上最大）